

# 令和3年度 第2回 函南町地域公共交通会議 議事録

日時 令和4年1月21日（金）

午後1時30分～

場所 函南町役場 大会議室

出席者 別紙出席者名簿参照

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 議 事

## (1)函南町拠点循環バス運行について 資料1

### 質疑、意見

会長	ただいま拠点循環バスの運行につきまして事務局より説明がございました。これにつきまして委員の皆様よりご質問等がございましたらよろしく願いをいたします。
●●委員	<p>●●です。本日は●●の代理で出席しております。●●と申します。</p> <p>拠点循環バスにつきましては公共交通の空白地域の解消や町民の足の確保という大命題があるわけですが、実績の部分はお話のあったとおりなのですが、なかなか利用者の数が少ないと率直なところ感じております。現状はまだ実証運行ということではあります。費用対効果の考え方をお持ちなのかどうなのかお聞きしたいのが1つ。</p> <p>今後の計画のところ、利用についてのアンケートのお話がありました。多くの人に利用してもらうということになりますと、当然利用されるであろう方々の要望を吸い上げて、乗降場所につきましても再度検討する必要があるのではないかというところがあります。</p> <p>アンケートにつきましては、取り方として、実際にご担当者の方がバスに乗って、乗ってきた利用者に対して直接目的、行き先等を尋ねる中でいろいろ要望を吸い上げていくこともやり方として1つあるのではないかと思います。以上です。</p>
会長	ありがとうございます。今の2つのご質問につきまして、事務局、よろしく願いします。
事務局	<p>ありがとうございます。まず1点目の費用対効果でございますが、これは町のほうが今伊豆箱根バスさんに委託して運行しているところでございますが、なかなか黒字というところには至っていないところがあるのが実情でございます。</p> <p>それから、今後、利用者アンケート等を通じて、当然バス停の場所であるとかルート、ダイヤ、そういったものは見直しをしていくことは必要なかなと考えてございます。</p> <p>やはり空白地域を解消していくところの中で、確かに費用対効果というのは当然求めていくところではございますが、より多くの方に利用していただく持続可能な公共交通を目指すということで、この実証運行の経過、それから結果等を踏まえて利用者の方のアンケート、先ほどバスに乗ってというご意見もあるのですが、そういったものも含めて利用されていない方のアンケート等も確認しながら、今現在運行している路線バスのところもありますので、そういったところとも少し協調しながら、よりよい公共交通、持続可能な公共交通を作っていきたいと考えておりますので、このルートが決定というわけではなく、これからいろいろな形で見直しをしながら利用者の増加を図っていきたくて考えているところでございます。以上でございます。</p>
会長	よろしいでしょうか。

●●委員	●●です。よろしくお願ひします。今乗降調査票を見せていただきましてちょっと意外だったなと思うのは、復路のところ、ゲートウェイ函南から函南町役場行き、私は当初伊豆仁田駅から函南町の職員の方、電車を降りられて役場に出勤される方がいるのではないかと個人的に思っていたのですが、これを見るとどなたもここでバスに乗られていない。であるけれども、7時22分発、8時27分発のダイヤであれば、合計25名が役場で降車されている。この25名のうち町職員は何名ぐらいいるものですか。もしわかれれば教えていただければ。16名、町職員の方にご利用いただいているわけですね。
事務局	事務局です。正確に町職員が何人乗っているかというところはわかっておりませんが、職員の中には毎週金曜日、ノー残業デーということで役場の中で設定している日がございます、通勤に利用してくださいということで朝の朝礼等で流しているような状況でございます。現在何人というところまでは取っていないのが現状でございます。
●●委員	わかりました。私は地域公共交通の委員になって最初の会議でお伝えさせていただいたとおり、官公庁が姿勢を示して、通勤は基本的には公共交通機関を使う。それが大原則だと思うんです。民間企業であっても、地元の交通不便なところでお住まいの方は別ですけれども、そうでなければ、通勤は基本的には公共交通機関を使うというのが大原則。マイカーを使えば当然事故も起こり得る。そうなれば仕事にも支障を及ぼすわけですから、公共交通を使ってほしい。使っていただくことによって伊豆箱根バスや東海バス、その他の民間のバス、タクシー業界は収入が入ってくるわけで、それがひいては地域公共交通の持続的なダイヤとして維持できるわけです。長年にわたってマイカー通勤の文化がこの地域においては浸透してしまっているの、一気には変えられないと思います。しかし、どこかで意識改革を図らなければこのままずっと続いていくわけです。ですから、せっかくこういう会議を何年にもわたってしているわけなので、できたら一人でもバスを利用していただきたい。それがこの地域公共交通会議の本来の趣旨ではないか。また、民間企業についても行政官庁にならってご利用いただく。そうするとどんどん町全体の地域公共交通の利便性がさらによくなるのではないかと。民間会社についても収益が安定しだすと思いますので、ぜひともそこをご配慮いただけたらと思います。 ちょっとどこで乗って、役場でどういうタイミングで降りられているのか理解しづらいところがあったので質問させていただきました。ありがとうございました。
会長	今の要望につきまして、事務局のほうは何かありますか。
事務局	大変貴重なご意見、ご提言ありがとうございます。おっしゃられるとおり、今通勤につきましては車での通勤が確かに習慣化されてしまってきているというのが実情でございます、函南町の拠点循環バスだけではなく、公共交通全般を通じて今職員に対して、もちろん出張もそうですし、通勤もそうですし、まだなかなか意識づけが簡単ではないということの中で、少し役場の庁舎で大きな行事があるようなときにこれから呼びかけをして、できるだけ公共交通を使う意識づけを今内部でいろいろ、お願いベースなのですが、始めさせていただいているところが実情でございます。ありがとうございます。
会長	ほかには。
●●委員	●●でございます。今のお話は中でもございましたけれども、この告知が十分できているかどうかということについて疑問がありましてお伺いするのですが、仁田駅の状況が非常に多いというのは、役場の職員が利用されているということですが、今年はNHKで「鎌倉殿の13人」というのが放送されております。かなりの関係のあるところもありますので、この沿線の中でも利用できるものもあるのではないかと思いますので、このターゲットに合わせた告知、期間中のこういったものの告知をもっとすべきではないかという感じがします。

	<p>それともう1点は、バスに表示してあるものがわかりにくい。これが今実証中のバスなのかなと。一瞬私も役場の前で止まっているバスを見て、これかな？という。もう少しわかりやすい表示の仕方があるのではないかという感じがしたのですが、その辺を考慮いただければと思います。</p> <p>それから、伊豆箱根さんにお聞きしたいと思うのですが、仁田駅で乗降があるというのは通勤のお客さん、また観光のお客さんもあるのではないかと思うのですが、もしできれば電車の中でこういうバスが今運行しているという車内アナウンスができるのであれば利用者も多少増えるかなという感じがしたのですが、可能ならば車内アナウンスをしていただければいいのかなと思います。これは可能かどうかわかりませんが、その辺もご配慮いただければ乗降客はもう少し増えるかなという感じがいたします。</p> <p>それと、これは役場の職員だけが利用するのではなくて、鉄道沿線の企業とか、そういったところにも公共バスを利用するというキャンペーンをなさったらいいのではないかという気がいたしました。1つ運動をしないと公共交通の利用者は増えていかないのではないかと思います。そういったことも何か企画をされて通勤は公共交通機関を利用する、そういうプロジェクトでも作って対応されるとこの実証実験ももっと成果が上がるのではないかと思います。以上です。</p>
会長	<p>全体としまして、いわゆるPRの方法をいろいろということでございます。またバスの表示等について、町として今後考えていることがございましたら事務局から願います。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。まず告知が少し不十分ではないかというところのお話でございますが、私どもも十分に伝わっているかどうかという中で、例えば沿線の湯〜トピアかなみですとか、道の駅ですとか、そういった沿線のスーパー、コンビニ等にこういったパンフレットを置かせていただいたり、それから、今お願いしているのが、例えば湯〜トピアかなみのホームページの中に循環バスの時刻表、案内を入れていただくようなお願いをしております。既にかねふくさんのホームページに循環バスのことを載せていただいているところがあります。また、伊豆箱根バスさんからもどういった告知をしていくと効果的なのかというところでまたアドバイスをいただきたいと考えております。</p> <p>2番目のバスの表示、わかりにくいというところで、今はマグネットシートでやっているのですが、これがまだいろいろな課題がある中で、できれば本運行に結びつけたいとは考えておるのですが、ラッピングとか、愛称というところもゆくゆくはそういった中で考えていきたいというところで考えております。</p> <p>企業向けのキャンペーンを何かというところのご提言でございましたが、そういったことももちろん考えていく中で、町の職員だけではなく、多くの方が自動車での移動に依存しているというか、それが少し定着してしまっているという中で、やはり公共交通をしっかりと使っていくということを踏まえた中で何らかの手が打てたらなというがあるので、またいろいろな方からアドバイスを頂戴して考えてまいりたいと思います。ありがとうございます。</p>
会長	<p>伊豆箱根鉄道さんは。</p>
事務局	<p>今日は欠席です。</p>
会長	<p>では、そちらのほうはまた事務局のほうから伝えておいていただくということによろしいですか。</p>
●●委員	<p>バスのところに拠点循環バスと書いてあるんですね。何の拠点循環なのかなという。文字を見れば拠点を回るバスだという意味合いはわかるのですが、一般の人が利用しようとするときに、どこの拠点をという。もう少し何かわかりやすい、愛着が持てるよう</p>

	<p>な、そういうバスの名前をつければもうちょっと利用される人があるのではないか。運転手さんに聞かないと意味がわからないみたいな。文字を見れば意味はわかるではないかと言われると思うのですが、一般の人がパッと見たときにちょっとわかりにくい感じがしたというのは、私だけではなくて、私も何人かにこういうバスはどうかという話を聞きますと、わけがわからないねという答えをもらったものですから、もう始まってしまったことなのであれですが、何かそういう工夫ができるともうちょっと利用者が上がるかなという感じがしました。</p>
会長	<p>今●●委員からもありましたが、運行を始めて今月で3カ月たつということになりますので、その間の検証を今日もしているような中で、それをフォローして先に発展させていくような施策方法を事務局として、町として考えて実行していかないと期間として間に合わないということにもなりますので、その辺は事務局としてしっかりと考えていただきたいと思います。</p> <p>ほかにありますでしょうか。</p>
●●委員	<p>●●です。12月に試しに乗ってみようと思って、ゲートウェイのほうから役場まで、朝の3便ぐらいだと思うのですが、乗って、どんな具合なのかというのを見てきました。</p> <p>結果は、私のときには私を含めて3人の乗客という状態でありました。</p> <p>なぜ乗ってみようと思ったかというのは、前からも話があったのですが、結構停留所の数も多いんですよ。その間隔というのはどうなのか肌で感じてみたかったというのが1つあって、その結果、別に全部の停留所で乗降があるわけではないので、むしろこのように細かく停留所があったほうが利用者が見たときにはむしろ使いやすいのかなというのは1つ感じたということです。</p> <p>もう1つは、これはできるかどうかわからないのですが、この路線を見ると仁田駅というのは結構キーになっていると思うのですが、仁田駅のバス停というのは単なる仁田駅前の道の上に乗っているだけというような状態なんですよ。本当は電車とリンクさせるのが一番きれいだと思うので、できれば駅の駐車場側にバスを5分間ぐらい停車させるとか、そういうことをやると、あの道の上で乗降するのは結構危ないかなという感じがするんです。さっき仁田の乗降が結構多いという話を聞きましたので、安全性も含めれば、仁田駅側にバス停を移していただければいいのかなと思って乗りました。</p> <p>それと、さっきの説明の中で、西部保育園の園児さんが乗ったというお話があって、それは非常にいいことだなと思うのですが、未就学児童だと無料ですかね。ということで、あまり事業的にはどうかというのはあるのですが、そういう目的だけではないでしょうから、いろいろな弱った方だとか、小さい子どもというのが利用していただければいいなと。</p> <p>そのときに、先ほど会長からお話がありました愛称ですよ。みんなが愛せるような名前、あるいは愛せるような姿、そういうものを、すぐにとという意味ではなくて、検証しながら皆さんから、子どもたちからいろいろな意見を求めたりすることによって全体の雰囲気を盛り上げていく。淡々とやるのではなくて、やはりそういうことをやっていかないとなかなか盛り上がらないのかなと感じておりました。以上でございます。</p>
会長	<p>ただいまの件につきまして事務局から何かございますでしょうか。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。まず1点目の仁田駅の駅前のほうへの乗り入れというところで、この計画段階でも考えていたところなのですが、スペースの問題と、あそこは伊豆箱根鉄道さんの敷地というところの中で、バス会社さんも入札で決めるというところの中で、スペースであったり、一旦は考えたのですが、今の現実には至っていないというところがありますので、またこのアンケートやルートの見直しとか、本運行に至るに当たってそういったところも可能なかどうか。今は小型のバスで運行させていただいて</p>

	<p>いる中で、それを継続するのか、それとも違う車両にするのかということも大きく関わってくると思いますので、大変貴重なご意見というところで、そういうことができる可能性を探りながら今後考えさせていただきたいと思います。</p> <p>また、今後の愛称というところで、私どももラッピングとか愛称というのはとても大事なことだなどと考えている中で、本運行を目指す中でそういうものも募集するとか、あとは、今回西部保育園の園児の皆さんに乗っていただいたのですが、例えば柏谷公園で園の活動の中で遊んでいただいて、公共交通に小さいころから触れていただくという、教育ではないのですが、そういったところも少し触れていただけたらなど考えておりますので、また幅広い世代にできるだけ使っていただけるようなことで考えていきたいと思っています。ありがとうございます。</p>
会長	そのほかご意見ございますか。
●●委員	<p>2点確認させてください。乗車のお客さんの人数のカウントの仕方ですが、ドライバーさんがカウントしているのか、運賃箱の経過から拾っているのか、それともカメラをつけているのか、やり方を教えていただきたいというのが1つ。</p> <p>10月までの運行ですが、こちらはまだ実証実験という位置づけでよろしいでしょうかという2点を教えていただければと思います。</p>
会長	その件について、事務局、お願いします。
事務局	<p>まず人数のカウントにつきましては、バスの運転手さんが乗ったり降りたりする方を目で見て数えていただいているのが実情ですので、正しい数字がカウントされているものでございます。</p> <p>実証運行につきましては、まだ入札が終わっているわけではありませんが、1年間の実証運行を計画したいと考えております。2月に4月以降の実証運行の入札をお諮りしたいと思っておりますので、基本的には10月末までの実証運行を計画しているというふうに考えております。以上でございます。</p>
会長	ほかにありますでしょうか。なければ、総括としまして、座長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。
座長	<p>それではちょっとお話をさせていただこうと思います。その前に、私のほうから事務局に質問をお願いしたいと思います。</p> <p>1つは、当初、平日が4人、休日が3人とか、利用は平日のほうが多いだろうという想定をしたわけですが、ただ実際には平日のほうが少なく、休日のほうがご利用が多いという実態なんですね。それは何か原因といたしますか、差が出たことがあったかどうか、こういうことです。</p> <p>それからもう1つは、3月までに利用者アンケートをやるという話ですが、むしろ利用者はこの形でご利用いただいているので、もちろん利用者の方にお聞きすることは大切なのですが、ご利用になられていないということで行くと、住民なり周辺のご利用になられそうな人たちはどういうお考えなのか。これは例えば自治会の皆さんとか地域の皆さんとか、住民の皆さんに直接お聞きするのは大変かもしれませんが、ある意味で地元の組織とかそういうところをお願いしてヒアリングするとか、何かお考えになっているかことがあるかどうか、2つお聞きしたいんです。まずそこをお願いします。</p>
会長	事務局、お願いします。
事務局	事務局です。平日、休日の想定との逆転現象でございますが、意外と道の駅での土日のイベント、そういったものに役場近辺の方が今まで交通手段がなくて行けなかったところを、バスがフォローして住民の足として活躍してくれているというところが見受けられます。小さいお子さんとお父さんお母さんというような形で、家族で出かけたり、高齢者のグループで道の駅まで出かけてご飯を食べてまた戻ってくるという利用の仕

	<p>方が見受けられます。そういったところで平日よりも休日のほうがイベント等の利用も含めまして多くなっているというところが見受けられております。</p> <p>また、もう1点のアンケートにつきまして、利用者はもちろんやらせていただきまして、また沿線の住民さんに対してアンケートを計画したいとこちらのほうでは考えておりますので、利用されていない方に対しても利用されない理由だとか、そういったところも含めまして集計が取ればというふうに考えております。以上です。</p>
座長	<p>ありがとうございます。ということをお聞きして、ずいぶん申し上げたいことがあるんです。</p> <p>先ほど来、ご利用の形で愛称とかいろいろなアイデアをいただいていますし、役場の方がもっと使うようにならなければとか、ごもっともなご意見をたくさんいただいていると思うんです。私が思うのは、せっかく新規に作った路線だとするならば、どうやって育てていくかということをお聞きして、みんなで考えなければいけないわけで、そのためのご意見をいただいたと思うんです。</p> <p>そういうご意見をいただいて、事務局は大変忙しいので申し訳ないけれども、もう少し前向きな答えが出てくるかなと思ったのですが、例えば今道の駅だとか湯〜トピアかなみとか、皆さんが集まってくれただけが多いわけですが、私、自分のところのまちではスーパーをお願いして、スーパーマーケットのところでもコミュニティバスの案内、私のところはあさび一号というのですが、もうすぐ市役所行きのあさび一号が到着します、ご利用の方は乗り場のところでどうぞというようなアナウンスをしてくれるんです。1時間に1本ぐらいしかありませんから乗り遅れると大変なんです。ということは、安心してスーパーマーケットなりお店なりで過ごすことができるわけです。そういうことをお願いしていくということが、すごいお金がかかるわけではない。仕事の中で大変かもしれませんが、そういう小さなこと、あまりお金をかけなくても皆さんにどうやってわかってもらえるか、どうやって使っていただくのかというのは、そんな待っている話ではないと思うんです。先ほどから皆さんおっしゃっていただいた話の中にその話もあったと思うんです。</p> <p>お金がかかることは、行政ですから予算化していかなければいけないとかいっぱいあると思いますが、それは手続きを踏んでやっていく。だけど、気軽に利用するほうが、こうやったら利用したいな、こうやったら利用するのに楽だよとか、こういう発想を持っているいろいろな手は打てるのではないかと。ホームページに載せましたとか、そういう話ではないと思うんです。そこは伊豆箱根さんにもご相談するのも大切だと思いますが、ぜひ自分たちが使うとしたらどういうことをやってくれたら使えるか、使いやすいか、利用しやすいかというのをみんなで考えていくと、そんなに難しいことではないことがいっぱいあると思うので、ぜひ実証運行のうちに皆さんにそれをわかっていただく。それをやっていってどうでしょうか、こういうことをやっているけれど皆さんどう思われますかとか、私たちはこういうことをやったんだけど、皆さんから見たらもっとこんなことを考えたらいいというアイデアがあったら教えてくださいとか、そういう話を整理していかないと、実証運行から本格運行へステップアップしていくときの住民の皆さんへの説明ができるような形にしてほしいと思います。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。今のご意見に対しまして、事務局から何かございますでしょうか。</p>
事務局	<p>どうもありがとうございました。先ほど座長が1つのご提案という中で、スーパーでのアナウンスというところでご提案をいただきまして、確かに小さなことでお金をかけずに、これはスーパーも沿線にはございますし、町の湯〜トピアかなみという温泉施設もありますので、それぞれのお店であったり、施設であったりというところにはパン</p>

	フレットの配架しかまだお願いできていない状況でございますので、そういったところにアナウンスも含めた形の中で、確かに周知をどうやってしていくか、利用していただくためにどうやったら使いやすいかというところはまだまだ工夫が足りていないなどということで痛感をいたしました。ありがとうございました。
座長	よろしく申し上げます。
会長	まず議題（1）の拠点循環バスの運行につきまして、委員の皆様からご意見をいただきました。ありがとうございます。町としてまだまだできることはたくさんあるなというのが現実ではないかと思えます。創意工夫、いろいろな発想と今座長のほうからもありましたけれども、それらをもって町民の皆さんに愛されるバスになっていくような形で努力をしていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。
事務局	ここで事務局から1点お願いごとがございます。ただいま、今年の10月31日までの実証運行、1年間ということで計画をしていて、本格運行を11月からという目標ではあるのですが、本格運行をするのかしないのかというところの判断を10月末までにしても間に合わないというところがあるものですから、今事務局とすると8月ごろには本格運行をするのかどうかというところで、またこの公共交通会議を開催させていただく中で、皆様からのご意見やご提言等々をいただきながら本格運行というところのご意見をいただけたらと思えます。もちろん本格運行というところもあるのですが、場合によっては見直しをした中で実証運行の期間を延ばすという選択肢も1つあるのかもしれませんが、本格運行なしというのも選択肢なのかもしれませんが、あくまでも運行していくというところを事務局としては前提として努力をしてまいりたいと思っておりますので、また引き続き利用者の方がどうやったら使いやすいかというところで皆様方からアドバイスがございましたらぜひとも事務局の総務課にご提言いただきますようお願いいたします。よろしく願いいたします。
会長	1年間の実証運行で終わりということではなくて、その先に続けていけるような形で町としては考えております。いろいろなご提言、ご意見、アドバイスをいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

## (2)令和3年度事業の進捗状況について

### ①デマンドタクシーについて

#### 質疑、意見

会長	福祉課から状況につきまして説明がありましたが、こちらにつきまして何か皆さんのほうからご質問等ございますでしょうか。 なければ、座長から総括としてご意見をいただけますでしょうか。よろしく願いいたします。
座長	ありがとうございます。まだ1カ月ちょっとということなので利用実績というのはなかなか大変かと思いますが、この1月30日に皆さんと話し合いをされるということで、これはすごく私は期待したいと思うんです。こういったデマンド型のタクシーというんですが、タクシーそのものはもともとがデマンドなんですよ。一番気になるのが、いろいろなところでお手伝いしていると、高齢者の方が、タクシーは高いものだ。ある意味でぜいたく品であるというようにいわゆるハードルが高いんだよとおっしゃられる方が結構お見えになったりします。タクシーというのが公共交通の1つの大きな柱でもあるわけで、タクシーの使い方というのがこれからずいぶん大切になってくる。特にバスの運行時間帯ではないところでのタクシーの利用の仕方、役割等々はすごく大きな

	ものになってくると私は思うのですが、そういう意味で、タクシーに対する高齢者の方がどのように思ってみえるのか。やっぱり使いにくいんだとおっしゃられるのか、いやいや気持ちの中でそういうハードルがあるのかとか、いろいろな要素が私は考えられると思うんです。バスと違ってあまりたくさん乗れるわけではないものですから、どうしてもそういう形にならざるを得ない。そういったところも含めて、意見交換会でご利用になれた方とご利用になられなかった方のご意見、それからもっと言うをご利用になられたときにどんないいことがあったか、こういういいことがあるよ、こんな楽なんだよ、こうやってやればもっと使えるよ、こういうご利用になった方のご意見をご利用されない方に教えてあげる。こういう丁寧な話し合いができるといいなと思いますので、ぜひ頑張っておこなうあたりをしっかりとやっていただけたらいいかなと思います。よろしくお願いします。
会長	ありがとうございます。福祉課から何かありますか。
福祉課	ご意見ありがとうございます。私どもとしましては、地元に出向きまして話し合いを重ねながらこの事業を何とかいいものにしていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。ありがとうございました。
会長	それでは、デマンドタクシーにつきましては、これからどのように発展していくことができるのか、また発展させていくのかというところを踏まえて、担当課のほうでもしっかりと対応をしていただければと思います。よろしくお願いします。

## ②伊豆箱根バス「大場－熱海線」停留所の設置について 議題2

### 質疑、意見

会長	大場－熱海線の停留所につきまして事務局より説明がございましたが、この件につきまして皆さんのほうからご質問等ございますでしょうか。
●●委員	<p>社協の高橋と言います。前回のときにも提案させていただいたのですが、きみちの設置を予定している場所ですけれども、人家から1kmぐらい離れている山の上というか、中間ですね。そこのお金をかけて設置をして、利用者がどれだけあるかということの調査は終わっているんですか。それが1つ疑問に思う。既存の路線バスがあるから、そこにバス停を設置すればいいよというだけの問題ではないと思うんです。いかにそれが利便性があって、必要不可欠なものかということを考えてときに、住居から1kmも山に行かなければ利用できないということになると、やっぱりその辺のものを含めて設置がいいかどうか再検討していただきたいと思います。</p> <p>先ほどの説明の中で、きみちの食堂さんからバス停のあれが得られなかったということも当然のことではないかと私は個人的には思うんです。例えばそこに設置されて利用するとすれば、住民の人はそこまで車で行って、きみちさんの駐車場に車を置いて利用するという形のものできてくるのではないかと思います。そうした場合には、きみちさんの食堂としてみれば自分の営業に支障を来すということも考えられる。</p> <p>いずれにしても、きみちのところに設置が必要かどうかということについて事務局に考え方を聞きたいと思います。</p>
会長	ただいまの質問につきまして、事務局、お願いします。
事務局	ありがとうございます。ここのバス停につきましては、以前の会議の中でご意見等をいただいている中で現在に至るところでございますが、現在伊豆箱根バスさんが熱海市で運行しているバスが、大場の本社から熱函道路を回送して熱海のほうで営業されてい



	<p>るところがあります。そういったものが1台でも2台でも利用できる環境を整えられないかというところで、利用者があるというか、ここにバス停を設置することによって熱海方面に行くことができる環境をまずは作ってみたいというところで皆さんにいろいろご意見をいただいているところでございます。</p> <p>確かに民家から離れております。盆地の中からは離れておりますが、今の伊豆箱根バスさんの営業形態の中でできるだけコストをかけないで、かつ公共交通として利用できる環境を作りたいと。なかなか今の状況で盆地の中にバスを降りて熱海方面へというところでは、やはり熱海での営業に支障が出てきてしまうというところがあるかと思うので、今できる中で、今できるところにバス停を作って、熱海方面へのお客さんというところを、利用される方のニーズもあると聞いておりますので、これは事務局としては進めてまいりたいと考えております。以上でございます。</p>
●●委員	<p>公共交通がないところに引こうというのは公共交通の目的だと思うんです。丹那地区ではそういったところに今全然公共交通がないわけですけども、前にも私は言いましたが、オラッチェが第三セクターということで、そこにつなげるについても、せっかくこういうところで公共交通の整備をしようという中では、そこに路線を持っていくように努力するのが行政の力ではないかと思うんです。奴田場だとか、あるいはデマンドタクシーができていますけれども、これは登録しないと利用できないということと、オラッチェみたいなどころを利用する人は一般の人で登録ができないわけですよ。そういった人たちが利用できるような公共交通を整備するというのも、この公共交通を考える中では1つの目的、公共交通を達成する中でどうやっていくかというのは討議して、何が一番有効かということも考えなければいけないと思うんです。</p> <p>費用対効果とさっき出ていましたが、丹那地区は費用対効果を考えると絶対にそれは無理なことだと思います。そういったときに費用対効果ばかりではなくて、地域の活性化ということ、あるいは町を盛り上げていくということを考えてときには、それを含めたものを当初から考えていくほうがいいのではないかと私は思っています。</p> <p>公共交通のこの会議も、もう6年ぐらいになるのではないかと。そのときそのとき出てきても、その辺のことが置き去りにされると言うては言葉が悪いのですが、そういったものをいかに生かせるかというような討議が今までされていなかったような気がしますので、せっかくこうやって何年もかけてやってきているのだから、資源の活用、あるいは地域の利便性というものを考えたものに構築していったらほしいと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。事務局、何かありますでしょうか。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。公共交通につきましては、既存の公共交通を最大限有効に活用していくというところで、いろいろな、例えばバスの路線1つ取っても、あっちに寄ったり、こっちに寄ったり、いろいろなところに寄れば寄るほど利用率が低迷したり、いろいろな問題がありますので、既存の公共交通を最大限活用していくという第一の中で、まずは伊豆箱根バスさんの大場―熱海線の中で、少し現地で使えるもの、まずはバス停を作るというところで今考えていて、それで終わりというつもりもございません。確かに今桑原区、奴田場区で行われているデマンドタクシー、丹那地区でもああいうたぐいのものを考えていくことも必要でしょうし、この後にスクールバスの話とか、いろいろな話も出てきますので、それをこのバス停の話で終わりというところではなくて、既存の公共交通を最大限利用して、できるだけ持続可能なものというところを考えていきたい。丹那地区ではその最初の1つ目の事業というところでございます。以上でございます。</p>
●●委員	<p>このバス停を作るに当たって、私も会議でいろいろ意見を出させていただきまして、きみちの近くにバス停ができるということで、ダイヤランドは今1,800人住んでおりま</p>

	<p>して、移住者がコロナ禍で増えてきております。東京方面から移住してくる方が結構増えている。そして、東京方面に通勤をしたり、自宅でテレワークをしたり、そういう働き方をされている方が多くなってきている。今までは熱海に駐車場を借りて、車で行って、そこに車を置いて新幹線で東京に行く、こういう形態だったんですね。奥さんに送ってもらうというケースもあるのですが、やはり負担が大きい。熱海までは距離がありますので。ですから、きみちの近くにこういうバス停を作っていただくと送り迎えの負担がとても楽になるということで、今回のこの計画については本当に皆さん喜んでおります。</p> <p>先ほど●●委員さんが言われました。不便だと。確かに不便なんです。これは丹那の方だけでなく、鬢の沢の方もそう、ダイヤモンドの住民にとってもそう。決して便利ではない。しかし、使い方をうまく、それぞれがアレンジすることによってその利便性は上がる。これは間違いない。</p> <p>それと、私はかねてから会議でお伝えしておりますけれども、丹那にはたくさんバス停があります。ご自宅の前にバス停がある。しかしそのバス停は子どもさん以外使えない。スクールバスのバス停ですからね。それはあまりに理不尽ではないかという思いがもともとありまして、スクールバスを一般路線化することによって丹那の皆様方のご自宅の近くにあるバス停が利用できることになるんです。確かにバスの本数は少ないです。基本はスクールバスですから。ですから、学校の通学時間に合わせた運行になるでしょう。確かに不便です。また、湯〜トピアバスもそう。無料で送迎してくれている。これは役場で乗降が可能となれば、1つ1つは大した利便性はない。しかし、それぞれの交通手段を総動員して、そして全体と見たときに、今よりはるかに利便性が上がるんですよ。経費をかけずに、いかに既存の交通手段をうまく使い勝手よくすることによって多くの公共の福祉に沿っていく。これはまさに国交省の政策の本旨だと思うんです。こういうふうなそれぞれが不便であるけれども、全体としては今より格段に利便性がよくなる。それがまた観光客についても利用可能となる。そういうところで、有り余る予算があるのなら、それは皆様方のいろいろなご意見に沿えることはできるでしょうけれども、現実問題として限られた予算の中でいかに利便性を上げていくかならば、その辺の調整はやむを得ないですね。1つ1つを見たら不満は当然あります。しかし全体を見た上でこの地域公共交通を考えていく。これは私も3年ほどこの会議に出させていただきましたけれども、そういうふうな国交省の政策は間違っていない。私は全く同じ考えです。なかなかこの辺はご理解が多くの人に難しいところがあるかと思いますが、事務局の皆様方、引き続き頑張ってくださいと思います。よろしく願いいたします。</p>
会長	事務局、よろしいですか。
●●委員	<p>●●と申します。私は丹那地区におりまして、●●さんのお話は結構知っていますが、原点に戻りまして、●●さんがおっしゃっているのは、きみちのところにバス停を作る、例えば丹那盆地に作るのとどういいう差があるかということをおっしゃっていると思うんです。ですから、できればそういうところを検証して、伊豆箱根さんの回送バスの利用というのが第一にあって、これが単なる延びることによって回送の時間がどれぐらいロスが起こるのかとか、もしそこで丹那で降りても2分、3分の差で大したあれはないということで、それで逆に丹那の人たちが利用してくれて、人が増えたらそのほうがいいのかなど、単純に考えているところもあります。そういったところの検討をなさったほうがいいのかと思いました。以上です。</p>
会長	ありがとうございます。それにつきまして事務局は何かありますでしょうか。
事務局	ありがとうございます。その点につきましても、伊豆箱根バスさんの営業の形態とも

	大いに関わることでございますので、個別にお話をさせていただきながら、可能なのかどうなのかというところでお話し合いを進めさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。
会長	そのほかありますか。
●●委員	●●です。私自身が存じていないので教えてほしいのですが、先ほど回送バスの利用ということだということを知ったわけですが、回送のバスは日に相当な本数が回送便としてあるのですか。
会長	事務局のほうで把握していれば。
事務局	伊豆箱根さん、いいですか。回送という言い方はちょっと語弊があるかもしれません。
伊豆箱根バス	<p>伊豆箱根バスでございます。お答え申し上げます。回答というか、当初、大場ー熱海線というのは路線でございまして、当社の営業所が存在する三島市大場から熱海駅まで回送で行ってございました。この回送している車両を国土交通省に届け出て、路線申請して、路線バスとして路線化したという経緯でございます。なので、今きみちにバス停を立てようというのはあくまで今は路線バスとして完全に認可を受けた路線バス事業としてやっています。</p> <p>ただ、もともと函南駅に行く途中に平井というバス停があって、その先は熱海の峠の笹尻の下がったところまで中間のバス停は一切今ない状態で運行しています。その途中の間に今きみちのところにバス停を立てようという議論になっています。</p> <p>ですから、回送バスという表現はもともと回送バスだったものを路線化して、路線で今動いているのですが、中間にバス停がないので、間に1本バス停を立てましょうという趣旨でございます。</p> <p>ご質問の熱海まで回送で行っているバスは、これは曜日によっても若干違いがございまして、1日約15本行っています。ただ、大場からのものは朝がほとんどです。日中は何台かありますが、ほとんどが早朝に行って、熱海の始発に合わせて熱海に向かっていくと。帰りは逆でございまして、熱海の最終を終わって大場へ帰ってくるということなので、深夜ということにはなりません、かなり夜のほうが多いです。</p> <p>ただ、バスのダイヤでは、当然早いバスは早く終わりますので、それが午後大場に戻ってくるというケースもありますし、最終までやるバスについては午前中から昼にかけて熱海に行くというバスになりますので、その時間帯に熱海に向かうバスがあります。以上です。</p>
●●委員	<p>ありがとうございます。これも結果的には利用してくれる見込みが立つかどうかというところが、バス停を設置しても結果的にそのバス停を利用されなければ、そのバス停の意味がないと自分は思っています。</p> <p>先ほど●●さんがダイヤランドのお話をされておりましたが、きみちのところにバス停をつけることによって利用される方がいるかどうかの見込みというか、周りへの聞き取りですとか、そういう部分というのは押さえられているのですか。</p> <p>私も今日この会議に臨むに当たって、前回2つの場所が停留所として候補があったと聞いております。ファミリーマートの函南丹那店と食堂きみちということで。自分はどちらの場所も直接行っていませんので現状をはっきり見ているわけではないのですが、地図上で見る限りですと、確かにきみちのところというのは周りに何もない状況だと感じました。果たしてここにバス停ができたときに、そこを利用してくれる人が本当にいるのかどうなのかというところがあれば当然設置することはよろしいとは思いますが、実際のところの実情がわかっていないと、ちょっとその議論がまず前提としてちゃんと見込まれていないとどうなのかなと思いました。</p> <p>候補の1つとなっていたファミリーマートの丹那店のほうはどうして今候補から外れ</p>

	たのか、どうしてきみちのほう優先されたのか、そのあたりがありましたら教えてください。ただければと思います。
会長	それにつきまして、事務局、お願いします。
事務局	<p>まず1点目の人数でございますが、実はダイヤランドの地区で要請をいただいて、以前に公共交通の説明会を実施させていただいた中で、そこにご参加いただいた方々の中からもできたら今熱海に行っている路線バスで熱海のほうに行けるバス停を作ってほしいというニーズは確かにありましたけれども、それが具体的に何人かというのはニーズを聞いたというところで、人数まではカウントできておりません。</p> <p>それから、きみちとファミリーマートの2カ所の候補地から1つなくなったというところでございますが、実はファミリーマートの辺ができたなら作りたかったほうではあるのですが、道路の形状が少しカーブになっているところございまして、熱海方面に行くほうは何かバス停が作れるかなというところでは形状的にはあったのですが、逆に熱海からこちらへ向かってくるほうはどうしてもカーブでスピードの出やすい形状であるものですから、なかなか対側にバス停の設置が困難だなというところで、少しずらしたところにもできないかというところで何度も現地を見たのですが、片側しか難しさがあるというところで、まずは利用できる環境を整える、ニーズがあるほうというところできみちの元の料金所のところへ何とかできないかというところで検討しているところでございます。以上でございます。</p>
●●委員	<p>1点いいですか。●●さんですか、お話しされたのですが、どれぐらいのニーズがあるかという件に関して、正確な数字は把握しておりません。私自身、いろいろな機会で多くの住民と日々接しております。皆さん口を揃えて早くバス停ができてほしいということはたびたび聞いております。</p> <p>そして、仕事以外にも、都心やいろいろなところから移住者が多いので、熱海のほうにも遊びに行きたいんですね。しかし、高齢で車を手放し、運転免許証を返納した状況の中でなかなか熱海に行けない。タクシーで行けばいいということもありますが、相当な金額がかかるというのが現実ですので、潜在的ニーズというのは正直あります。私自身もそう。熱海にもっと行きたいんですね。知り合いも熱海におりますので一杯飲みに行きたいわけ。そうしたら、マイカーで行くわけにはいきません。きみちなり、丹那の方だったら例えばオラッチェにバス停があったらいいと思うんですね。私は別にオラッチェにあっても構わないわけですけども。でもそこまでだったら家族が迎えに来てもらえる。自分のコミュニティというか、人間関係の中で、もっと活動が広範囲に広がるんですね。そういう潜在的なニーズというのが埋もれているんです。それは過疎化を加速させてしまうんですね、公共交通がないということ自体が。そこが問題が1つ。</p> <p>それともう1つ、乗降が見込めないという推測をされておりますけれども、データがあるなら、例えば伊豆箱根バスは原生の森という十国峠から箱根峠に向かう山の途中にバス停があります。あそこは誰が利用しますかという世界でしょう。しかし、利用している方は中にいる。</p> <p>ですから、バス停というのはやはり1つのその地域にとって、またいろいろな人の活動の中であるのとないのとでは全く違うんですね。単純に乗降が見込めないという、まさに推測だけで判断されると、実態とは違う。そこはご理解いただきたいと思っております。以上です。</p>
会長	皆さん、ほかにはいかがでしょうか。よろしければ伊豆原先生に総括をお願いしたいと思います。では、先生、お願いいたします。
座長	今のお聞きしながら、前からダイヤランドの方、それからその近くにお住まいの方たちから見て、熱海へのアクセスがなかなか難しいという話はずっとこの会議の中でも

	<p>ご要望をいただいたということをお聞きしています。これは皆さんがあそこのバス停をどう使うか、また逆に設置したことによって皆さんにこういうふうに使えるよというPRをしていくとか、この会議の中で使いやすさ、さっきら申し上げていますが、公共交通をどうやって使いやすくしていくかというあたりにメスを入れて、お金は少しかかるかもしれませんが、そのあたりは行政の支援をしていかなければいけないと思いますので、そこら辺も含めて住民の皆さんと使い勝手について議論していただく、そういうことが大切だと思います。</p> <p>ですから、量がどれだけあるか、そういうことはある意味では大切かもしれませんが、むしろそこにお住まいの方たちにとって安心感とか、そこらあたりも含めて公共交通の利用勝手というのを議論していただく中でこのバス停の議論をしていただけると大変ありがたいと思います。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。大場一熱海線のバス停につきましては、既存の路線の中でバス停を1カ所設置するというごこととさせていただきます。設置して終わりということではなくて、設置してからどうやって利用していくか、またこれが始まりになるのではないかというふうにも捉えられるところはあろうかと思えます。それは先ほど来の拠点循環バスも同様でございます。公共交通というのは動かし始めればそれで終わりではなくて、どうやって利用していくのか、利用してもらうのか、また利用できるように工夫をしていくのかというのは重要な点でございますので、町としましては、また伊豆箱根バスさんとしっかりと協議をした中でやっていきたいと思っております。ただ、協議の内容につきましては、まだどのようになるかはわかりませんので、なかなか難しいところはあろうかと思えますが、今のところそういう形になろうかと思えます。</p>

### (3)その他

#### ①函南中学校スクールバスについて **議題3**

#### 質疑、意見

会長	<p>今事務局から説明がありましたが、この件につきまして皆さんからご意見、ご質問等ございますでしょうか。</p>
●●委員	<p>●●と申します。確認したいのですが、今の運行形態を教えてくださいと思います。教育委員会さんがどこかに委託をしているのか、自前で運行しているのかということと、混乗化の検討のイメージというのがあれば、その後は誰が運営して、運行形態はどんな形でやるのかという青写真のようなものがあれば教えてくださいと思います。よろしく願いいたします。</p>
会長	<p>事務局、お願いいたします。</p>
事務局	<p>現状、教育委員会が伊豆箱根バスに委託をして、貸し切り事業ということで運行しているものでございます。生徒さんのみ利用ができるような状況でございます。</p> <p>先ほどの青写真というところでございますが、どういった形態でというところでございますが、そこを令和4年度、具体的に協議を進めていく中で示していければというところがございますので、今どういった状況でというところまで決まっているものではなくございませぬ。すみませんが、ご承知おきいただければと思います。</p>
会長	<p>よろしいですか。ほかにこの件につきましてありますか。</p>
●●委員	<p>●●です。もし路線化するとしたときの課題というか、法律上の立てつけでいって、2、3点ですが、お話しさせていただきます。</p> <p>スクールバスですので、当然学校行事ですとか、時間割によって日々多分運行時間が</p>

	<p>違うんだと思います。最初に年間スケジュールが決まっていればある程度時刻表とか、ダイヤ表は作れると思うのですが、もし臨機応変に伊豆箱根山のほうで学校の要望に合わせて日々運行を変えているような場合ですと、なかなか路線でやるとなるとダイヤの変更とか事前に届け出なければいけない等々があるので、その辺の調整が必要になるのかな。なかなか柔軟な運用が難しい点があります。</p> <p>それと、現状バリアフリー法に適合している車両でやっているのかどうかというところもあるのですが、もし路線バスですとその辺もバリアフリー法に適合した車両が必要になりますので、そこはご留意いただければと思います。以上になります。</p>
会長	今の件につきまして、事務局、何かありますか。
事務局	ありがとうございます。路線バス化というところにつきましては、あくまで1つの選択肢として載せているものでありますので、そういった可能性も含めていろいろと方法等を検討して、この会議の場でお示しができればと考えております。ありがとうございます。
●●委員	●●さんにお尋ねしたいのですが、全国でスクールバスが一般乗合化していると思うのですが、それは把握されておりますか。
●●委員	全国のものは把握しておりません。申し訳ございません。ただ、長泉町さんで1カ所、スクールバス貸し切りだったところを路線化しているところはございます。
●●委員	<p>私は地域公共交通会議の委員になるに当たって、国交省の政策をすべて読ませていただきました。そして全国のスクールバス、要はすべての交通手段を総動員して、そして地域公共交通空白地域、特に中山間地、ここの住んでいる方々の最低レベルの足を確保すると。それが国土全体の保全につながるというお考えだったと思うんです。</p> <p>それで、現実に今、日本各地でスクールバスが一般乗合、要は路線バス化して、そして子どもたちには県や市町の予算の補助によって無料で乗降できる。そして一般の方は正規の料金を支払うということで、バス会社にとっては当然利益が上がるわけで、そして住民にとっても利便性が上がる。そして、地域の中で高齢の方とか子どもさんとコミュニケーション、つながりができていくと思うんです。そういう形で国交省の政策として何年もかけて今進んできているわけですから、ちょっと意外なお話をされたのかなと思いましたが、申し訳なかったのですが、以上です。</p>
●●委員	<p>政策としてはおっしゃるとおりなのですが、法律上の立てつけの話をさせてもらったので、その整理をお願いしますというところでお話しさせていただきました。</p> <p>スクールバスばかりではなくて、例えば企業バスなり、いろいろな送迎バスがあるのですが、それぞれの自治体さん、市町さんによって実際に走っている、活用できるもの、可能性があるものは違ってくるので、一概にほかの自治体さんで駄目だからここではできないとか、ここはできるから向こうでできるとかいうところもないものですから、それぞれの自治体さんの運行されている自家用のバス、スクールバス等も含めて、どのような形にしていくのかというところは来年度いっぱいご議論いただくというところなので、活用可能性を含めて今後検討いただいて、法的な整理のところはやはりどうしてもしていただかなければならないので、そんな形でご検討いただければと思います。</p>
●●委員	すみません、ちょっと追加で。法的なところは当然の話なんですね。それは私も承知しております。そして、繰り返しますが、すべての交通手段を総動員して、そのうちの1つとしてスクールバスがあり、湯〜トピアバス、また伊豆箱根の平井から来宮あたりまでの中山間地にバス停がない。これを作るということで、それぞれが、繰り返しますが、1つ1つの交通手段は不便なんです。決して利便性はよくない。でもいくつかの不便なものが揃うことによって選択肢が増えることが生活のクオリティを上げていくわけです。ですから、まさに私は国交省の政策どおりにこの会議の委員として発言

	<p>させていただいてきたと思っております。</p> <p>そして、本来はもっと欲を言えば、病院の送迎バス、ゴルフ場の送迎バス、こういうのはすべて交通手段に入るんですね。ですから、本当はそこまで全部マネジメントするというか、捕捉して協力を求めていくというのが本来だと思うのですが、それは実務的になかなかあれもこれも一遍にできませんので、少なくとも私はこのスクールバスとか湯～トピアのバスとか、伊豆箱根の運行バスをうまく使う。まずここをする。そこをした上で、今後はホテルの送迎バスなり、ゴルフ場のバスなり何なりを総動員して、函南町にお住まいの方々がより暮らしやすい地域にしていく。それがまた観光客の方も使っていただける。そうすると函南町全体が栄えていく。そういう構図を視野に入れて議論すべきだと思うんです。当然本件、専門家の方に対して大変釈迦に説法の話で申し訳なかったですが、私はそういうふうを考えております。以上です。</p>
会長	皆さん、よろしいでしょうか。それでは、座長、総括をお願いいたします。
座長	<p>今お話をお伺いして、来年度1年かけて検討しようというご提案ですよ。イメージは、今●●さんがおっしゃったとおりなんですよ。いわゆるスクールバスをどうするかという話ではなくて、事実走っているサービスをどうやったら皆さんが使えるようになるかという視点なんですよ。だから、そのための方法として路線バス化、私の知っているところでも実は中山間でスクールバスではなくて路線バスに子どもさんが乗ってもらう仕組みを作ったという事例もあります。いくらでもあるんですね。だから、スクールバスに一般の方を乗せるとか、そういう限定上位みたいに考えずに、どうやったら上手にバスの仕組みを作っていけるかということをお願いいたします。その中で、児童の送迎と一般の方の利用がうまくマッチングできるようにするにはどうやるんだ、こういう話だと思うんです。</p> <p>だから、ここで中学校の理解、また教育委員会の理解と書いてあるのはちょっとわかりにくいですが、実はこれは子どもたちの理解なんです。子どもたちと保護者の方の理解を得なければいけない。もうちょっとみんなで使いやすい仕組みを作れないかなという、こういう発想でもってご検討いただけたらいいかなと。</p> <p>そのときに、制度上の問題、法制度の問題でいろいろクリアしなければいけないことは支局にご相談したり、県にご相談したりということが起きてくる。1年間というのはそんなに時間的に猶予はないですから、事務局のほうもスケジュールをしっかりと立て、どうやったらこの方策が実現できるかということをお願いいたします。先ほど●●さんがおっしゃったのですが、全国に事例がいくらでもあります。ですから、そういうことも含めて、函南ではこういうことをやっていったらどうかなと地元の皆さんにそういうことを提案しながら、クリアできる部分はクリアしていく、ちょっと難しい部分は難しいよということを皆さんにご理解いただくような、基本的には議論だと思うのですが、話し合いをしていただくというのがすごく大切だと思います。時間的にはそんなに余裕がある話ではないというぐらいの思いで検討いただけたら大変ありがたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
会長	ありがとうございます。これにつきましては今後検討して協議をしていくということで、次に移りたいと思います。

## ②実証実験路線について(東海バス)

### 質疑、意見

会長	ありがとうございます。この件につきまして何か皆さんのほうからお聞きしたいことがあれば、いかがでしょうか。 なければ、次に移りたいと思います。
----	---

## ③単独継続困難路線について(伊豆箱根バス)

### 質疑、意見

会長	ありがとうございます。ただいま伊豆箱根バスさんから説明がありましたが、皆さんのほうから何かご質問等はございますでしょうか。座長、何かありますでしょうか。
座長	今のお話で、この路線、今ご説明いただいた部分は評価シートにお書きいただけませんかでしょうか。バスロケの話は僕は今初めて聞いたのですが、バスロケの話はどこも出てこない。こういう努力をしたとか、こういうことを考えているとか何らかのことが、先ほど来議論されているように、どうやったら使いやすくなるかとか、皆さん一緒に考えている中で、今のお話のコメントしていただいた部分はここに書いていただくことが必要ないんですかね。僕はそんな感じがしますが。評価シートの一番最後の基本的事項か評価のあたりのところを見ていて、せっかくそうやって一生懸命やっていたいてるところであれば、そこは書いていただいて、皆さんに知っていただく。住民の皆さんにも知っていただくというのはすごく大切だと思いますが、いかがですか。
会長	伊豆箱根さん、いかがですか。
伊豆箱根バス	ご指摘ありがとうございます。伊豆箱根バスでございます。こちらの評価シートは令和2年度の終了時点で作成させていただいたものでございまして、大変申し訳ございません。このときにはまだバスロケについての社内での決定等がまだできておりません段階でございました。 ただいまご指摘いただいたこちらの将来的なものについては、ほぼ導入の予定が確定しておりますので、こちらについては記載をさせていただくよう今後進めてまいりたいと思います。予算措置とか、会社の社内決裁とか、正式ないろいろな手順を整えまして導入ということになれば、もちろんこちらにも記載させていただきます。ご指摘大変ありがとうございます。
座長	お願いします。ありがとうございます。
会長	それでは、こちらの申し出につきまして、会議といたしましては了承ということによりろしいでしょうか。
	(異議なし)
会長	では、そういうことよろしく願いいたします。



#### ④自主運行事業について(三島市)

##### 質疑、意見

会長	ありがとうございます。この件につきまして何かお聞きしたいことがございましたら。 なければ、次に移りたいと思います。
----	--

#### ⑤自治会やボランティアによる移動支援について

##### 質疑、意見

会長	この件につきまして何か皆さんからお聞きしたいことはございますか。 なければ、静岡運輸支局様より追加の資料がございますので、説明をお願いいたします。
----	--

#### 静岡運輸支局追加資料

##### 質疑、意見

会長	ありがとうございます。2点につきまして説明がございました。何か皆さんのほうからお聞きしたいことがございましたら。 それでは、以上でもちまして本日予定をしておりました議事につきましてはこれで終了いたしますが、全体を通じまして、まず委員の皆さんのほうから何かあれば。
●●委員	●●と申します。本日は大変貴重なお時間をお借りしまして、一言我々タクシー事業者、先ほど静岡運輸支局さんのほうからご案内がありましたが、タクシー事業の現状につきましてご報告をさせていただければと思っております。 先ほどご案内のとおり、我々タクシー事業者は大変厳しい状況でございまして、本当にこのまままいりますと、先ほどお話がありまして、事業の継続すらも大変困難な状況になっております。まして、昨年から続いております燃料費の高騰、そしておそらく来週出でであろうオミクロン株をはじめとしたまん延防止措置が適用されるということになりますと、本当に我々事業者としてこれからどうしていったらいいのかなという。 これは我々タクシー事業者のみならず、バス事業者さんも路線バスでは普段、この後お話しいただいてもよろしいのかなと思うのですが、貸し切りがほとんどないような状況だと伺っておりますので、ぜひここで一つお願いになってしまうのですが、近隣市町では我々タクシーやバス、あるいは鉄道について何かしらの支援策をいただいているということがありますので、ぜひ函南町様におかれましては我々公共交通事業者に対して何かしらの利便向上、あるいは直接の支援になるかどうかわかりませんが、ぜひ令和4年度、ご検討賜れば大変ありがたいと思ひまして発言させていただきました。以上でございます。
会長	状況等につきましては、先ほど運輸支局さんのほうからも話がありましたので、またその辺につきましては総務課のほうとよく協議をした中でお願いをしたいと思ひます。 ほかにありますでしょうか。
●●委員	●●と申します。皆様の話を聞いていまして、拠点循環バスというのがこれからの高齢化社会の中でいろいろな役割を果たす上で大切な交通機関だということがよくわか

	<p>りました。皆さんの意見の中に、このバスが循環バスだということがわかるという印象を持っていただくことが大切だということで、私も役場で1度ほどこのバスを見たことがあって、横と前には循環バスだという表示がされていましたが、後ろはどうだったかわからないのですが、車の中でも初心者マークとか高齢者マークがついていると一目で、あれは高齢者の方が運転している車だな、あれは初心者の人だなということがわかります。そんな大きなマークでなくても、絵というので人に印象づけるということが必要なことだと思いますので、何かそういうマークを、KAN-CHAN、NAMI-CHANとか、何か印象に残るようなマークをつけていただければどうか。</p> <p>あと、今新型コロナウイルスの感染症がまん延する中でいろいろ実証実験をしているわけですが、やはり人の気持ちとして不特定多数の人が乗るバスはどうかなという気持ちになるのかもしれないし、また、季節が今冬ということで寒い中外へ出るのはどうか、寒いなどということで、季節によっていろいろ条件が変わると思いますので、この実証実験の中でもそういうことを配慮してやっていただきたいと思います。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。事務局につきましては先ほど来から出ている意見もございましたので、それらを踏まえまして今後の拠点バスの運行について協議をしていただければと思います。</p> <p>ほかにはありますでしょうか。</p> <p>なければ、座長、よろしく願いいたします。</p>
<p>座長</p>	<p>個々については先ほど申し上げたので、最後に、今お話しいただいたタクシーの件と、それから三島市さんの話をしておきたいと思います。</p> <p>タクシーの場合、先ほど支局からお話がありましたが、本当に大変な状況に陥っているということはこの市町も同じ状況になっています。</p> <p>あるところで、今の状況から見てどのようにしたらいいんだろう、夜なんかはサービスしてくれるのはどれだけになっているとか、いろいろな話が出てきていまして、私たちがタクシーの活用策というのはこれからすごく大事になると先ほど申し上げたと思うのですが、そういう意味では今お話があったのですが、タクシーは今どれくらい動いているのか。そういうのをぜひ皆さんにご発言いただくのにデータとして示していただきたいんです。儲かる儲からないとか、それももちろん会社の都合でしょうから。ただ、どれくらい今の動き方がされているのかというのはわからないというのが皆さん実態なんですね。だから、何回呼び出しがあったとか、そういう話とかがわからないんですね。ですから、状況が大変だ、大変だとおっしゃるのはよくわかるので、事業者さんが大変な努力されていることもよくわかっていますけれども、私たちはそういうことを聞くからいろいろなデータを見せていただいたりしますが、こういう会議ではそれが見えないんですね。利用者というのは支局からのデータがあればわかるのですが、その他のデータというのはなかなかわからないので、そういう状況ではやっぱり理解しにくいと思うので、ぜひそういったところも。</p> <p>それからもう1つ、計画の中に、これから公共交通計画というのは恐らく作っているし、函南もそうなのですが、タクシーをどうやって使えるか、または使い勝手はこうやればもっとよくなるのではないかとか、タクシーの使い方というのも私たちは考えていく。計画の中に入れていくというのもこれから考えていかなければいけないのではないかと考えています。</p> <p>それからもう1つ、先ほど三島市さんからお話がありました。三島市さんの運行は、今までは民間の路線だったのが、三島市さんの自主運行ということになるということですから、本来はこの地域公共交通会議で確認して協議事項でちゃんと協議がまとまったという合意事項にしておかないといけないのではないかと私は思っているのです</p>

	<p>が、これはお互いにわかり合っているということではいいと思いますが、むしろ自主運行で三島市がやっているのだから俺たちは乗ってもいいのかなとか、今までは伊豆箱根さんがやってくれたからパッと乗れたかもしれないけれど、三島市さんの自主運行になってしまって、市民の皆さん、町民の皆さんもそういうのが使えるんだよと。むしろ便利になったとか、いろいろな話ができると思いますので、三島市さんの自主運行バスの話はこの会議の中でも、また地元の皆さんにもお伝えしてほしいんです。ここの会議で議論したというよりも、報告したというだけではなくて、皆さん函南中学の近くの方たちは結構使えるぞとか、そういう PR も函南町の会議の中から出していただく。逆に言えばそれによって函南町から見たらあそこは三島市の自主運行バスでサービスが高いから、じゃあ私たちはこのエリアをやろうとか、お互いに分担をし合うとか協力し合うという仕組みをこれから作っていただけると大変いいのではないかと思います。自主運行バスのすごくいい方向を私は望みたいと思います。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。      以上をもちましてすべての議事が終了いたしました。それでは、事務局にお返しいたしますので、よろしく申し上げます。</p>

4 閉 会

(以上)